

上皇陛下・上皇后陛下、仙洞仮御所に

令和2(2020)年3月31日午後、上皇陛下・上皇后陛下は仙洞仮御所に到着されました。マスクをされていたが、車の窓を開けられ、沿道に並ぶ方々に手を振られていました。港区及び周辺町会から歓迎の花束が贈呈されました。

仙洞仮御所には約1年半の滞在予定で、その後赤坂御所に移られる予定です。仙洞仮御所前の道路の植え込みに、プリンセスミチコのばらが植えられており、5月、10月頃には満開になり、通る人の目を楽しませています。



仙洞仮御所に到着された上皇陛下・上皇后陛下
提供：宮内庁



仙洞仮御所前に植えられた
プリンセスミチコ

地域のあしあと 仙洞仮御所のあゆみ

令和2(2020)年3月31日、上皇陛下ご夫妻におかれましては、我が高輪の仙洞仮御所にお移りになりました。みなとつが42号では、心からの奉迎の意を込めて、ここに至るまでの周辺の歴史を含め、ご紹介します。



近隣商店街に今でも
掲げられている提灯

第2次世界大戦後、約6万㎡あった高松宮邸の敷地は1万㎡になり、高松中学校、高輪一丁目都営アパート、松ヶ丘住宅地、高輪区民センター、宮内庁宿舎などに払い下げられました。



⑤ 黒門
『増補 写された港区= (高輪地区編)』/港区立郷土歴史館所蔵
明治、大正、昭和と宮邸のシンボルとして親しまれたが、昭和29(1954)年、国の重要文化財の指定を受け東京国立博物館に移築された。



⑥ 大石良雄他16人忠烈の跡表門



⑥ 大石良雄他16人忠烈の跡
大石良雄他16人忠烈の跡の内部
(普段は公開されていない)

▼朱線内が細川家中屋敷の範囲。周辺に多くの抱え屋敷を持っていた。



▲昭和22(1947)年の高松宮邸。当時は、現在の魚籃坂下付近にも御門があり、そこから邸内に向けて車路が続いていた。(『増補港区近代沿革図集 高輪・白金・港南・台場』(港区立郷土歴史館所蔵))

▼令和2(2020)年現在



① 高松宮邸と光輪閣

天神坂で親子2代、昭和の初期から酒屋(カドヤ)を営んでいた西廣保之さん(78才)のお話。

「高松宮邸本館は昭和21(1946)年、当時の貿易庁の迎賓施設「光輪閣」として使用されました。かつて宣仁親王の国際関係特別秘書官であった川添浩史さんを支配人に据え、連合国軍総司令部の高官や大使、公使などの接待、結婚披露宴を催す施設に転用されました。カドヤは光輪閣から酒の注文を受けていました。

生ビールは恵比寿の工場に行き、仕入れていました。当時、高級なウイスキーは仕入れの数に限度があり、仕入れに苦労しました。私は父と一緒に車で光輪閣に酒を配達しました。地下の駐車場に車を止め、そこから宴会場に運びました。庭でガーデンパーティが催されたこともありました。」



当時の光輪閣の外観(現存しない)

② 高松中学校開校当時の思い出

1期生 堀野又夫さん

高松中学校は昭和24(1949)年に開校し、最初は白金小学校の仮校舎で授業を受けました。

高松宮邸の敷地であったこの土地は、最初、農業地にして食べ物を供給する予定でしたが、高松宮様のぜひ教育の場を提供したいという強いご意思により高松中学校用地になりました。

校舎ができるごとに、白金小学校から自分の椅子を高松中学校に運びました。生徒数は329人と多かったのですが、最初の校舎は狭く、6クラス2部制で行いました。校舎は木造で冬は暖房もなく、寒かったです。その後、2回増築しました。体育館もなく、第1回卒業式は外の運動場で開催されました。第1回卒業式には高松宮様がご臨席になり、宮様が通られる道に赤絨毯が敷かれていました。

大きな会合・式典がある時は、教室の仕切りをとり、3教室を一つの部屋にして行いました。

校庭の中央には松がありました。横に長く、走路は直線で100mとれました。水泳の授業は旧高松宮邸の中のプールを宮様のご好意で使わせていただきました。用務員さんがベルを持って始業を知らせに歩いていましたが、横に長い校舎なので最初の教室の始業の時間と最後の教室の始業の時間に差がありました。



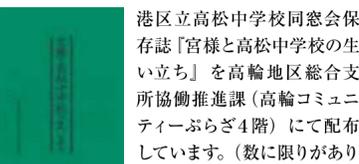
高松宮邸内プールでの水泳授業
(高松宮妃殿下も参観)



運動場で行われた第1回卒業式
提供：高松中学校同窓会



高松宮殿下がデザインされた校章



港区立高松中学校同窓会保存誌「宮様と高松中学校の生い立ち」を高輪地区総合支所協働推進課(高輪コミュニティふらざ4階)にて配布しています。(数に限りがあります)

③ 松ヶ丘住宅地

昭和21(1946)年3月、恩賜財団同胞援護会が設立され、総裁として高松宮宣仁親王を奉戴しました。昭和23(1948)年同胞援護会により、戦災で家を持った家族、引揚者のための住宅地、松ヶ丘住宅地が建設されました。碁盤目状の道路で区画された土地に、同じ間取りの木造平屋建て住宅87戸が建てられました。当初道路は舗装されてなく、土のままでした。高松宮様は住宅地の中を警護もなく、気楽に散歩されていました。地域に集会所、広場、児童遊園があり、住民はよく利用していました。

戦災を受けた同じ境遇の方なので、地域の住民の結束は固く、災害が発生した時は、地域の住民がバケツリレーをして消し止めた記憶があります。(安藤洋一77歳)



松ヶ丘住宅地を散策する高松宮殿下
(当時の住宅は現存しない)

④ 高輪一丁目都営アパート

高輪一丁目都営アパートに最初からお住まいの嶋口和彦さん(78才)のお話。

「昭和23(1948)年都営アパートが建てられ、目白から高輪に引っ越してきました。入居者の選定は厳しかったようでした。GHQの後押しにより、日本で戦後、最初に建てられた鉄筋コンクリートのアパートでした。

最初は2棟建てられました。風呂はなかったのですが、当時最先端の水洗トイレがありました。その後、7棟建設され全部で9棟になりました。8棟は4階建てで、1棟は3階建てでした。

エレベーターはなかったのですが、しっかりした建物で停電、断水は一度もなかったです。」



⑦ 旧細川邸のシイの木
樹齢400年ともいわれる旧細川邸のシイの木は、東京都天然記念物に指定され、現在は高輪地区総合支所の裏手の高台にその姿をみせている。
提供：東京都教育庁



仙洞仮御所のあゆみ

仙洞：上皇の御所。「仙洞」が皇居とは別に設けられたのは、9世紀初頭・平城天皇の平城宮に始まる。

- 細川家**
- 寛永21(1644)年 細川家が下屋敷として拝領(約2万坪)…⑦
 - 元禄15(1702)年 赤穂浪士討ち入り
大石内蔵助以下16人が細川家にお預けとなる。細川家は、赤穂浪士を主君の仇を討った武士の鑑として歓迎。
 - 元禄16(1703)年 大石内蔵助等17人切腹 切腹の場所は、表座敷前庭だったと伝えられる…⑧
 - 文政10(1827)年 中屋敷と唱替
 - 明治元(1868)年 明治維新
 - 明治5(1872)年 武家地に新たに高輪西台町が起立
 - 明治6(1873)年 海軍病院が芝車町からこの地へ移転。高輪周辺には海軍関係の施設が多く残っている。
- 高輪御料地**
- 明治22(1889)年 宮内省高輪御料地
 - 明治23(1890)年 9月宮殿造営の起工
 - 明治24(1891)年 明治天皇第六皇女(常宮)、第七皇女(周宮)の御殿となる(高輪御殿)
 - 明治25(1892)年 高輪皇女御殿竣工
宮邸の表門に、黒門が移築…⑤(馬場先門近くの因州鳥取藩上屋敷の門だった)
- 東宮仮御所(皇太子裕仁親王) 東宮御学問所(総裁東郷平八郎)**
- 大正2(1913)年 1月 建増しに着手
12月 竣工
 - 大正3(1914)年 ~大正10年(1921)まで過ごされる
 - 大正12(1923)年 関東大震災 高輪御殿全焼
- 高松宮邸**
- 昭和2(1927)年 高松宮殿下 魏町三年町邸より高輪御料地内高輪仮御殿に移居
 - 昭和5(1930)年 高松宮同妃両殿下ご成婚
 - 昭和6(1931)年 高松宮邸竣工(2,100㎡)
 - 昭和10(1935)年 ~13年2月 山階宮常子妃、高輪御料地内仮御殿に居住
 - 昭和16(1941)年 ~昭和20年(1945) 太平洋戦争
- 戦後、敷地の分筆が進み、住宅地・学校用地等へと変貌**
- 昭和21(1946)年 高松宮は当時の貿易庁の迎賓施設「光輪閣」として使用…①
ご夫妻は木造平屋建ての和館に起居
 - 昭和23(1948)年 高輪一丁目都営アパート建設…④
松ヶ丘住宅地建設…③
 - 昭和24(1949)年 港区立高松中学校創立…②
 - 昭和29(1954)年 黒門移築
 - 昭和46(1971)年 光輪閣が老朽化により取り壊される
 - 昭和48(1973)年 跡地に平屋建ての宮邸を建設
 - 昭和62(1987)年 高松宮宣仁親王薨去
 - 平成16(2004)年 喜久子妃薨去
高松宮邸は、高輪皇族邸として、宮内庁管理下に置かれる
 - 令和2(2020)年 3月 上皇・上皇后両陛下が御移居になり、仙洞仮御所となる

参考文献：岡本哲志監修「古地図で歩く天皇家と宮家のお屋敷」平凡社
学習院大学史料館「写真集近代皇族の記憶 山階宮家三代」吉川弘文館

港区立郷土歴史館・宮内庁宮内公文書館共催 特別展 「港区と皇室の近代」	
開催期間	10月17日(土)～12月20日(日)
所在地	港区白金台4-6-2(ゆかしの杜内)
観覧料	特別展のみ 大人400円 小中高生200円 常設展七ヶ巻 大人600円 小中高生200円 ※区内在住・在学の小中高生、区内在住の65歳以上の方、区内在住の障害者とその介助者(1名)の観覧料は無料(証明ができればものをご持参ください。)
開館時間	午前9時～午後5時(土曜日のみ午後8時まで) ※入館受付は開館の30分前まで
会期中休館日	11月19日(木)・12月17日(木)
連絡先	03-6450-2107

(担当/安藤、吉田、伊関、小林、近藤、滝川、平尾)